

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
未払配当金の支払い、 支払明細発行のお問 合わせ先・郵便物送付先 ^{※1} ^{※2}	(お問い合わせ先) 東京都府中市日鋼町1番地1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711 (通話料無料) (郵便物送付先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座に記録された株式に 関する各種お手続きのお問 合わせ先・郵便物送付先 ^{※3}	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324 (通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない 事由によって電子公告による公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
公告掲載アドレス	http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6724/6724.html

- ※1 住所氏名変更・配当金振込先指定(変更)等の事務手続きについては、お取引の証券会社等にお問い合わせの上、所定の変更届等を提出してください。
- ※2 株主名簿管理人の事務拠点の移転に伴い、2017年8月14日付で上記のとおり変更しています。
- ※3 特別口座にて管理されている単元未満株式(100株未満)の買取りの際には、買取請求書を上記「みずほ信託銀行株式会社 証券代行部」にご請求の上、同行にて所定の手続きを行ってください。

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号
TEL: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>



この冊子は、FSC® 認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用して印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

セイコーエプソン株式会社

2018年3月期 中間株主通信

2017年4月1日～2017年9月30日

CONTENTS



TRUME



ORIENT STAR



WristableGPS



smart canvas

特集: 1

エプソンにしか実現できない、個性的なウオッチが勢ぞろい

P. 5



特集: 2 ご家庭からオフィスまで、
選べる機種と選べるプランが勢ぞろい

P. 7

CSR エプソン初の統合報告書
トピックス 「エプソン 統合レポート 2017」を発行

P. 8

経営理念・連結財務ハイライト	P. 1	連結決算の概要	P. 9
株主の皆さまへ	P. 2	会社情報/株式情報	P. 10
中間期の連結業績について	P. 3	株主メモ	裏表紙

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して

世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた、なくてはならない会社でありたい。

そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、
お客様に驚きや感動をもたらす
成果を生み出します。

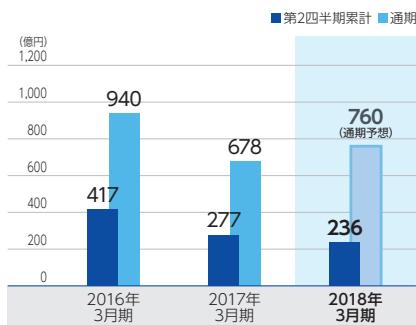
EPSON
EXCEED YOUR VISION

連結財務ハイライト

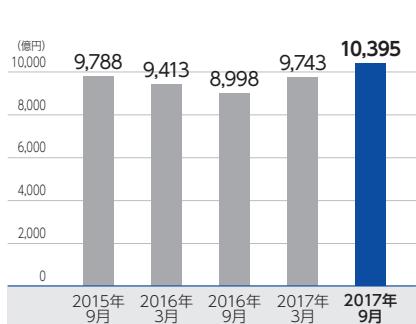
売上収益



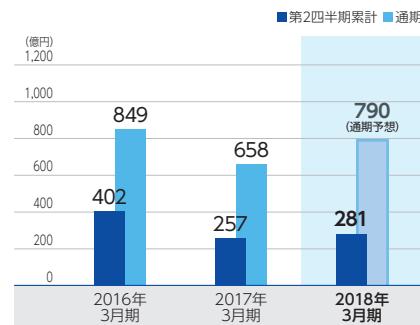
営業利益



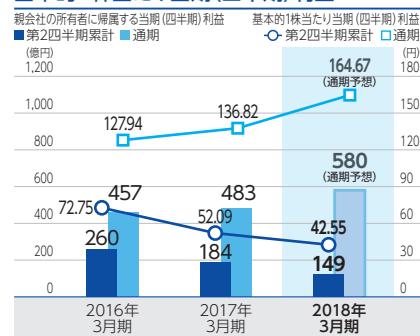
資産合計



事業利益



親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益 基本的1株当たり当期(四半期)利益



親会社の所有者に帰属する持分 親会社所有者帰属持分比率



(注) 1. 2014年3月期に係る連結財務諸表から、国際会計基準(IFRS)を任意適用しています(移行日:2012年4月1日)。
2. 2018年3月期通期の売上収益および各利益は、2017年10月26日公表の予想金額です。
3. 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しており、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念です。

本文中、セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」、エプソングループ(当社および当社の関係会社)については「エプソン」と記載しています。

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに2018年3月期中間株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

経営理念および企業行動原則の改定

エプソンは、2017年4月1日付で経営理念の一部を改定しました。これは、長期ビジョン「Epson 25」を通じた会社としてのありたい姿である「なくてはならない会社」を経営理念に加え、ステークホルダーの皆さまへ明示したものです。また、経営理念の根底に流れる「信頼経営」の思想に基づき社会的責任を果たしていくために、本年10月1日付で企業行動原則も改定しました。

エプソンは、より良い社会の実現に向けて、驚きと感動のお客さま価値を創造し続け、世界中のステークホルダーの皆さまから将来にわたって信頼され、世の中のために存在する「なくてはならない会社」を目指してまいります。

当中間期(2017年4月～9月)の成長戦略および業績の概況

当中間期におきましては、長期ビジョン「Epson 25」で掲げたイノベーションの実現に向けた取り組みを着実に前進させることができました。

プリンティング領域では、大容量インクタンクシステム搭載インクジェットプリンター(国内ではエコタンク搭載モデル)の販売が、新興国に加え先進国においても順調に拡大しました。また、最新のプリントヘッドであるPrecisionCoreラインヘッドを搭載し、1分間で100枚のプリント(A4横片面)を実現した高速ラインインクジェット複合機を国内外のオフィス市場向けに発売しました。さらに、商業・産業分野での重点分野である、サインージ・テキスタイル・ラベル分野向けの大判プリンターの販売も順調に拡大させることができました。

ビジュアルコミュニケーション領域では、レーザー光源を搭載した高光束プロジェクターをはじめとした高付加価値モデルの販売が堅調に推移し、市場でのプレゼンスも一層向上しています。

ウェアラブル領域では、主力であるセイコービジネスやムーブメントビジネスのほか、オリジナルブランドビジネスの強化にも取り組み、「TRUME」や「ORIENT STAR」などのブランドを冠した新しいウオッチの販売を開始するなど、お客さま拡大に向けた取り組みが進展しました。

ロボティクス領域では、中華圏を中心とする需要拡大を確実に捉え、ロボットやICハンドラーの販売が大幅に増加しました。

以上の取り組みに為替効果も加わり、売上収益は5,273億円(前年同期比397億円増)、事業利益は281億円(同24億円増)、四半期利益は151億円(同34億円減)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は149億円(同34億円減)となりました。

株主の皆さまへの利益還元

当期の中間配当につきましては、業績が期初の予想に沿って着実に進捗していることなどを踏まえ、従来予想どおり1株当たり30円とさせていただきます。下期においても、今期業績予想の達成と同時に、引き続き長期的な成長に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



2017年11月

代表取締役社長

碓井 稔

売上収益：5,273 億円 (前年同期比 8.2%増)

事業利益：281 億円 (前年同期比 9.4%増)

事業セグメント別の概況および業績の主な変動要因

(注) セグメント利益(事業利益)は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。

プリンティングソリューションズ事業セグメント

売上収益 3,420 億円 (前年同期比 7.4% 増)

セグメント利益 359 億円 (前年同期比 5.9% 増)



売上収益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:億円)



セグメント利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:億円)



■ プリンター事業

インクジェットプリンター、シリアルインパクトドットマトリクスプリンター(SIDM)、ページプリンター、カラーイメージスキャナーおよびこれらの消耗品、オフィス製紙機など

■ プロフェッショナルプリンティング事業

大判インクジェットプリンター、産業用インクジェット印刷機、POSシステム関連製品、ラベルプリンターおよびこれらの消耗品など

■ その他

PC など

主な商品



カラリオ・プリンター
[EP-880AW]



大容量インクタンクプリンター
[EW-M670FT]



シリアルインパクト
ドットマトリクスプリンター
[PLQ-30S]



インクジェットラベルプリンター
ColorWorks[TM-C7500]



大判インクジェットプリンター
[SC-F9350]



高速ラインインクジェット複合機
WorkForce Enterprise
[LX-10000Fシリーズ]



インクジェット複合機
[PX-M7070FX]



インクジェットデジタルラベル印刷機
SurePress[L-4533A]



オフィス製紙機
PaperLab[A-8000]



インクジェットデジタル捺染印刷機
Monna Lisa EVO TRE

プリンター事業

- インクジェットプリンターは、大容量インクタンクモデルが新興国を中心に販売数量が大幅に増加したことに加え、先進国においても市場認知度の高まりから販売数量が増加し、売上の拡大が継続。また、為替による増収影響もあり、全体では売上増加。消耗品は、前年同期並みに推移。
- ページプリンターは、高付加価値製品へ販売を絞り込んだことにより、本体販売の減少に加えて消耗品販売も落ち込んだ結果、売上減少。
- SIDMは、中国徴税市場での特需があった前年同期に対して売上減少。

プロフェッショナルプリンティング事業

- 大判インクジェットプリンターは、既存市場であるフォト・グラフィックス分野で売上が伸長したことに加え、成長市場であるサインエージ分野、テキスタイル分野およびラベル分野でも好調に推移したことで売上が拡大し、為替による増収影響もあり、全体では売上増加。また、消耗品についても、本体の販売数量増加、為替による増収影響もあり、売上増加。
- POSシステム関連製品は、北米で低価格モデルが堅調に推移したことによる販売数量の増加、為替による増収影響もあり、売上増加。

以上の結果、プリンティングソリューションズ事業セグメントのセグメント利益は、ページプリンターやSIDMでの売上減少があったものの、インクジェットプリンターの大容量インクタンクモデルや大判インクジェットプリンターの売上増加、為替による影響もあり、増益。

ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

売上収益 **991** 億円 (前年同期比13.1%増)

セグメント利益 **127** 億円 (前年同期比77.5%増)

売上収益
構成比
18.8%

■ ビジュアルコミュニケーション事業

液晶プロジェクター、液晶プロジェクター用高温ポリシリコンTFT液晶パネル、スマートアイウェアなど

- 液晶プロジェクターは、高光束分野でのレーザー光源モデルが好調に推移したことで高付加価値製品の販売数量が大幅に増加し、為替による影響もあり、全体では売上増加。

以上の結果、ビジュアルコミュニケーション事業セグメントのセグメント利益は、高光束分野での販売数量の増加、為替による影響もあり、増益。

売上収益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位: 億円)



セグメント利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位: 億円)



主な商品



ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

売上収益 **863** 億円 (前年同期比6.5%増)

セグメント利益 **47** 億円 (前年同期比20.1%増)

売上収益
構成比
16.3%

■ ウェアラブル機器事業

●時計(ウォッチ、ウォッチムーブメントなど) ●センシング機器

■ ロボティクスソリューションズ事業

●産業用ロボット、ICハンドラーなど

■ マイクロデバイス事業他

●水晶デバイス(水晶振動子、水晶発振器、水晶センサーなど)
●半導体(CMOS LSIなど) ●金属粉末 ●表面処理加工

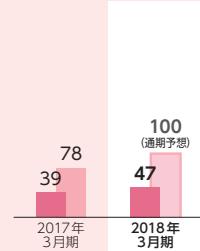
売上収益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位: 億円)



セグメント利益

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位: 億円)



主な商品



ウェアラブル機器事業

- 為替による増収影響があったものの、ウォッチの販売数量が減少したことにより、売上減少。

ロボティクスソリューションズ事業

- 産業用ロボットが中国を中心としたロボット需要を取り込み売上増加となったことに加え、ICハンドラーがスマートフォン向けの販売が好調だったことで売上増加。また、為替による増収影響もあり、全体では売上増加。

マイクロデバイス事業他

- 水晶デバイスは、為替による増収影響があったものの、携帯電話などのパーソナル機器向けの数量減少により売上減少。一方、半導体は、車載用大口顧客向けの数量減少があったものの、為替による増収影響、ファンドリー需要の増加による販売数量の増加により、売上増加。

以上の結果、ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントのセグメント利益は、ウェアラブル機器事業での売上減少があったものの、ロボティクスソリューションズ事業の売上増加、為替による影響もあり、増益。



プログラマブル水晶発振器
[SG-8018シリーズ]



16ビットマイコン
[S1C17M2シリーズ]



小型6軸ロボット
[N2-A450]



GPS ランニングギア
WristableGPS
[U-350BS]

その他

売上収益 **4** 億円 (前年同期比29.5%減)

セグメント利益 **△2** 億円 (前年同期は2億円のセグメント損失)

売上収益
構成比
0.1%

- グループ向けサービス業など



エプソンにしか実現できない、

エプソンのウェアラブル機器事業では、主力であるセイコービジネスやムーブメントビジネスに加え、オリジナルブランドビジネスでは、メカニカルウォッチのORIENT STAR / ORIENT、センシング技術を活用したスポーツウォッチのWristableGPS、自分だけの時間の流れを精緻なグラフィックスで演出するSmart Canvas の、三つのウォッチブランドを展開してきました。

2017年、新ブランド「TRUME」が加わりました。これまで以上に幅広いお客さまに、エプソンにしか実現できない個性的なウォッチをお届けし、着ける喜び、使う喜びをご提供します。



TRUME

トウルーム

2017年9月、エプソンから新たなウォッチブランドが誕生しました。

最先端のウェアラブル技術と匠の技を駆使して、アナログウォッチの可能性を追求します。

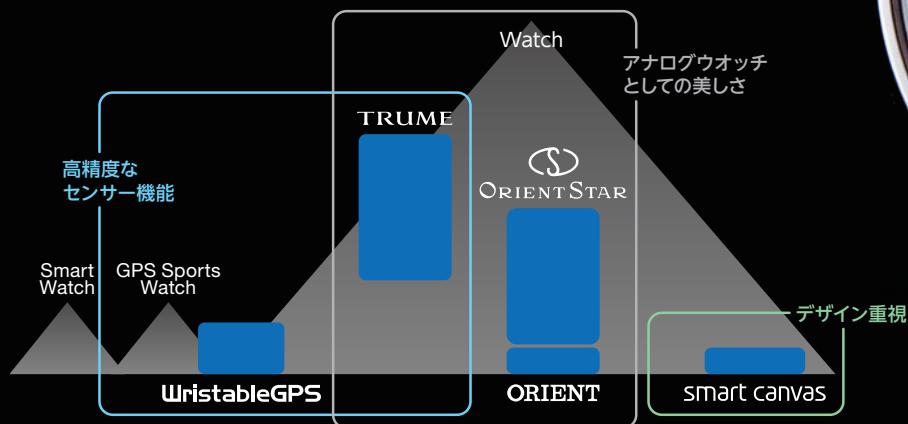


ORIENT STAR

オリエントスター

1951年から続くオリエントスターに最新ムーブメントを搭載した機械式月齢モデルが加わりました。オリエントの伝統とエプソンのウォッチ技術を融合し、さらに美しく、高精度、高品質なメカニカルウォッチを提供します。

個性的なウオッチが勢ぞろい



WristableGPS

リスタブルGPS

定評のある位置精度や長時間計測に加え、要望の多かった計測開始時間の短縮を実現しました。活動量計機能も強化し、レースから日常生活までフルサポートします。



smart canvas

スマートキャンバス

オリジナルのデザインコンテンツやバンドの自在な組み合わせで、自分好みの1本を手に行ける、個性的な生活を彩るウオッチです。

ご家庭からオフィスまで、 選べる機種と選べるプランが勢ぞろい

ご家庭

ご家庭での多様なプリントニーズに適したプリンターを、3つのタイプからお選びいただけるよう、従来の「カラリオプリンター」に加え、「エコタンク搭載モデル」、「Colorio V-edition」のラインアップも強化しています。

お客様の使い方に合わせて、最適な一台をお選びいただけます。



エコタンク搭載モデル

インクたっぷり
ケタ違い大容量

4機種を追加し、全7機種にラインアップ拡大



Colorio

多機能をスマートに
使えるコンパクト

3機種7モデルを新発売



Colorio V-edition

日常をプレミアム画質で
手軽に楽しむ

1機種を追加し、3機種に拡大

オフィス

エプソンのスマートチャージ



2017年6月、エプソンのスマートチャージラインアップを一新。デスクサイド用プリンターからセンターマシン複合機まで8モデルをラインアップしました。

高速ラインインクジェット複合機LX-10000Fシリーズは、新開発のPrecisionCoreラインヘッドを搭載し、100枚/分*の印刷速度と高画質を低コストで実現しました。

また、サービスプランも拡充し、さまざまなオフィスのニーズに高いレベルでお応えするラインアップになりました。



PX-S840X



PX-M840FX



PX-S7070X



PX-M7070FX



LX-10000F/7000Fシリーズ

* A4横片面の場合

エプソン初の統合報告書 「エプソン 統合レポート 2017」を発行

エプソンは、初の統合報告書「エプソン 統合レポート 2017」の日本語版を、2017年9月28日に公式ウェブサイトにて公開しました。



統合報告書とは、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）の観点での投資や企業評価が社会的に進む中で、企業としての持続性を示す「ESG情報」、経営状況を定量的に示す「財務情報」、今後の成長性を示す「事業・戦略情報」を株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまにご説明するコミュニケーションツールです。

本レポートでは、エプソンがより高いお客さま価値を創出する上で欠かせない、事業の継続的な成長を目指す戦略「価値創造戦略」と、ESGを中心とした企業の持続性を支える取り組み「価値創造基盤」を紹介しています。また、2017年に特定した「CSR重要テーマ（マテリアリティ）」についても紹介し、経営理念で掲げた目指す姿を実現し、「なくてはならない会社」になるための取り組みや企業としての方向性を分かりやすく示しています。

「CSR重要テーマ」とは、エプソンを取り巻く社会課題のうち、自社視点・社会視点から重要度が高いテーマを経営理念に基づいて策定したものです。

本レポートをステークホルダーの皆さまとの新たなコミュニケーションツールとして活用し、エプソンの取り組みをより深くご理解いただき、建設的な対話につなげたいと考えています。

詳しくはホームページをご覧ください

IR エプソン統合レポート

検索



「社会課題に対するCSR重要テーマの策定」のページ

■ 「エプソン 統合レポート 2017」の概要

形態 A4版 全56ページ / 和文版・英文版

内容 大きく分けて以下の4つの内容から成り、経営理念、企業行動原則、CSR重要テーマ、成長戦略および環境・社会・ガバナンスなど各CSR施策を中心に紹介しています。

- 経営理念・企業行動原則、CSR重要テーマ
- トップメッセージ、価値創造戦略
- 価値創造基盤(ESGの主な取り組み)
- 財務数値等、定量的な企業データ

連結決算の概要

四半期連結財政状態計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2017年3月期 連結会計年度末 (2017年3月31日現在)	2018年3月期 第2四半期連結会計期間末 (2017年9月30日現在)
資産		
流動資産	6,024	6,506
非流動資産	3,719	3,888
資産合計	9,743	10,395
負債		
流動負債	3,513	3,883
非流動負債	1,282	1,398
負債合計	4,796	5,282
資本		
資本金	532	532
資本剰余金	843	843
自己株式	△308	△308
その他の資本の構成要素	531	580
利益剰余金	3,323	3,439
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,921	5,086
非支配持分	25	26
資本合計	4,947	5,113
負債及び資本合計	9,743	10,395

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2017年3月期 第2四半期連結累計期間 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	2018年3月期 第2四半期連結累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	332	266
投資活動によるキャッシュ・フロー	△371	△417
財務活動によるキャッシュ・フロー	△156	228
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	△97	18
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△293	96
現金及び現金同等物の期首残高	2,304	2,217
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,011	2,314

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

四半期連結包括利益計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	2017年3月期 第2四半期連結累計期間 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	2018年3月期 第2四半期連結累計期間 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
売上収益	4,875	5,273
売上原価	△3,197	△3,435
売上総利益	1,678	1,838
販売費及び一般管理費	△1,420	△1,556
その他の営業収益	30	12
その他の営業費用	△9	△57
営業利益	277	236
金融収益	7	6
金融費用	△14	△13
持分法による投資利益	0	0
税引前四半期利益	270	230
法人所得税費用	△84	△78
継続事業からの四半期利益	186	151
非継続事業からの四半期損失	△0	—
四半期利益	186	151
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目合計	△57	72
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△288	48
税引後その他の包括利益合計	△345	121
四半期包括利益合計	△159	272
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	184	149
非支配持分	1	1
四半期利益	186	151
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△158	270
非支配持分	△1	2
四半期包括利益合計	△159	272
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	52.09	42.55
継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	52.11	42.55
非継続事業に関する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期損失 (円)	△0.02	—

(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。
2. △はマイナスを示しています。

会社概要

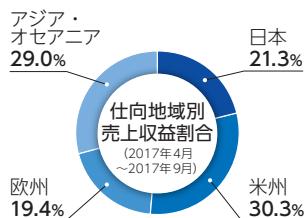
商号	セイコーエプソン株式会社 (SEIKO EPSON CORPORATION)
創立	1942年5月18日
本社	〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 TEL: 0266-52-3131 (代表)
本店	〒160-8801 東京都新宿区新宿四丁目1番6号JR新宿ミライナタワー TEL: 03-5368-0700 (代表)
資本金	532億4百万円
従業員数	連結: 80,928人 単体: 12,642人



グループ会社 86社 (当社含む国内16社、海外70社)

国内関係会社

エプソン販売株式会社
エプソンドIRECT株式会社
東北エプソン株式会社
秋田エプソン株式会社
宮崎エプソン株式会社
エプソンアトミックス株式会社
他9社



海外関係会社

Epson America, Inc.
Epson Europe B.V.
Epson (China) Co., Ltd.
Epson Singapore Pte. Ltd.
Epson Engineering (Shenzhen) Ltd.
Singapore Epson Industrial Pte. Ltd.
P.T. Indonesia Epson Industry
Epson Precision (Philippines), Inc.
他62社

役員

取締役		執行役員	
取締役社長 (代表取締役)	碓井 稔	常務執行役員	羽片 忠明 奥村 資紀 渡辺 潤一 島田 英輝
取締役 専務執行役員 (代表取締役)	井上 茂樹	執行役員	北松 康和 深石 明宏 村田 すなお 森山 佳行 高畑 俊哉 北原 強 佐伯 直幸 下斗米 信行 山本 和由 安藤 宗徳 五十嵐 人志 Keith Kratzberg 大塚 勇 小川 恭範 阿部 栄一 市川 和弘 内藤 恵二郎
取締役 専務執行役員	久保田 孝一		
取締役 執行役員	川名 政幸		
取締役 執行役員	瀬木 達明		
社外取締役	大宮 英明		
社外取締役	松永 真理		
取締役 常勤監査等委員	濱 典幸		
社外取締役 監査等委員	奈良 道博		
社外取締役 監査等委員	椿 慎美		
社外取締役 監査等委員	白井 芳夫		
		監査等特命役員	重本 太郎
		監査等特命役員	重本 太郎

株式の状況

発行可能株式総数	1,214,916,736 株
発行済株式総数	399,634,778 株
株主の総数	32,294 人

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	47,025	13.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,638	7.27
三光起業株式会社	20,000	5.67
セイコーホールディングス株式会社	12,000	3.40
服部 靖夫	11,932	3.38

(注) 1. 当社は自己株式 47,232 千株を所有していますが、上記の大株主の状況から除外しています。
2. 持株数は、千株未満を切り捨てています。
3. 持株比率は、自己株式を控除して計算し、小数点以下第 3 位を切り捨てています。